2007年 新春号

WA! VOL.29

L'hôpital KYOWA

梅の花と共和病院

精神医療の変革…これまで、これから…

私は平成8年に理事長就任以来「優しい医療、楽しい職場」を理念として掲げ、この10年、職員と共に駆け抜けてきました。その中でも昨年の自立支援法は障がいの方々にとって大きな変化です。精神障がい、知的障がい、身体障がいが一つの枠組みとされ、これまでとは全く異なる保障システムに変化し、それぞれの障がいの程度に応じてサービスも変わります。一方精神障がいの領域では世界で日本が最多と言われる精神病床が削減され「入院医療から地域医療へ」と変わる事となります。その結果、外来の患者様が増加しそれに対応するため精神科診療所が増え、診療所はその地域のホームドクターの機能を担い、もしもの病状の悪化などは即座に対応できる様に病院は診療所との連携が必要になってきます。また精神科病院は入院機能としては急性期（短期入院）が中心となり、そして社会復帰へ導くという責務を負って行きます。こうして精神科病院や診療所などの医療機関や福祉施設はそのサービス情報を詳しく公開する事で患者様や利用者の方々に対し自由な選択を提供します。もちろん障がい者の方々が安心して社会生活できるために市町村の福祉対策も必要となります。現在では市町村を中心に居宅生活支援および活動支援事業が始まっています。以前は精神障がいの方々の社会復帰への努力は個々の病院で行ってきましたが今後はより密な連携が必要となっています。

これからの精神科医療は「根拠のある医療（EBM）の実践」「精神障がいの機能に合わせた病床の提供」「新しい薬物（非定型抗精神薬）の開発による病状の早期安定」「長期入院への対応」が必要です。長期入院で帰る家が無くなってしまった、また身寄りが無いなど病状の安定したいわゆる社会的入院といわれる方々の福祉施設への移行や高齢化による老人介護施設への移行もこれからの課題となるでしょう。

特定医療法人共和会は、日本の将来を踏まえて子供さんからご高齢の方々まで心の健康も含め地域の皆様へ良質な医療・福祉サービスをご提供いたします。

2007年　元旦

特定医療法人共和会　理事長　加藤　仁

日本医療機能評価機構
認定シンボルマーク

こころの健康フェスティバル

リハビリテーション科　朝倉　起己

2006年11月11日、大府市体育館をメイン会場に、知多半島地域こころの健康フェスティバルが開催されました。当日はあいにくの雨天にもかかわらず、近隣市町の各団体から多くの当事者やスタッフが参加しました。"街に住むひとりひとりのこころの健康をめざして" をテーマに、会場内では和太鼓や健康体操などのアトラクションをはじめ、セレモニーや当事者主体のソフトバレーボール大会、展示コーナー、健康相談が実施されました。屋外においてはこころのふれあい市としてバザーや模擬店販売が実施されました。

和太鼓演奏は『てんてこまい』というグループ名にて地元大府市で活動している方が笛や太鼓を楽しく叩き、聴いている人も楽しめる演奏であり賑やかに盛り上げていました。

次いで大府病院・ワンツースリーによる『健康体操』が行なわれました。ハッピを羽織り、鳴子を両手に持ち、ステージには20人、会場アリーナには10人ぐらいの演舞者に分かれリズムに合わせて会場内を所狭しと踊っており会場を盛り上げていました。

セレモニーでは、まず、こころの健康づくり連絡協議会を代表して当院榎本和院長が "障がいを持つ人だけでなく、高齢者や子供も含めたひとりひとりのこころが健康になるような街づくりの大切さ" について挨拶をし、次に開催地として大府市助役から歓迎の挨拶、主催者を代表して半田保健所長より挨拶を頂戴しました。

同じ時間帯、屋外ではカレーライスや手打ちうどん、らーめん、みたらし等の模擬店や展示即売会が実施され、各出店団体は大いに賑わっていました。またファニートンボワンマンバンドのステージショーも開催され、その熱気に天気も応えてか(?)途中からは晴天になりました。

さて、本フェスティバルのメインイベントであるソフトバレーボール大会が午後からメインアリーナにて実施されました。このソフトバレーボール大会は武豊町総合体育館以来の2年ぶりに開催され、知多半島地域の各団体10チームが参加し、前回の武豊町大会で優勝した当院のチームが選手宣誓を行ない開始となりました。私達のチームはユニフォームを揃え意気込みも士気も高く試合に臨みました。一回戦はカジュアルハウスチーム(つくし家族会)との対戦で手に汗握る熱戦となり僅かな差にてなんとか接戦を征しました。組み合わせが良く次はもう準決勝。わっぱチーム(共生福祉会わっぱ)と対戦し登録選手の殆どが出場して全員全力プレーにて勝ち進みました。そのチームワークと賑やかなムードのまま決勝戦。相手はさくらチーム(南知多病院援護寮さくら)。リードを奪ったり奪われたりのシーソーゲームでしたが、榎本院長はじめ多くの応援者の声援が後押ししたこともあって見事に優勝!! 参加選手、応援者ともにガッツポーズと歓喜の輪でした。選手の努力と応援者の後押しとチームワークとユニフォームで勝ち取った優勝でした。

今年は知多市にて開催されることが決まっています。こころ豊かに活き活きとしているフェスティバルに、みなさん是非参加して下さい。

もちつき大会

リハビリテーション科　柳田　博志

以前のもちつきは実に寒かったのを思い出します。それ迄がそこそこの寒さでも当日になると特に冷え込み、石油ストーブを何台か用意をしたりしたものでした。もちつきは外での行事と思っていましたが、一昨年からC館3階の病棟の方には多大の迷惑を掛けていますが、C館4階の多目的ホールで実施できる様になりました。

このもちつき大会にはいつの世にも印象深いメンバーがいました。もちは大根おろしに限る、と言って自分で大根おろしを用意してつきたてのもちを常に一番で食べる人…。紅白の幕の張り方からこだわって仕切る人…。

そして今年も…。盆踊りともちつき、となると異常に張り切り、休日を返上して豆絞りで参加してくれた人…。全くの他部署から応援参加してくれ現場を仕切る人…。そのような皆様の協力により今年のもちつき大会も12月6日に無事終了しました。

そのもちつきを総括したOTの職員は、今年のもちつき大会は予定通りに実施できなかった、何故なら「OT室にもちが残らなかった」、と残念そうに語っていました…。

我が病棟自慢
～外来～

はじめまして。いつも元気な外来です。

外来は、内科と精神科で一単位として機能しています。中井次長を中心に、個性あふれる7名のスタッフでローテーションをしながら、とても楽しく仕事をしています。

外来は、曜日によって担当医師が変わります。先生方のキャラクターも個性的で、診療のスタイルが違うので、先生方の性格をつかむのも私達の仕事!?です（＾ｏ＾） 先生方から見ても、同じことが言えるのかもしれませんが…（＾ɜ＾）

私達は、来院される患者様がスムーズに診療が受けられ、来院して良かったと思ってもらえるような外来にしたいと思います。

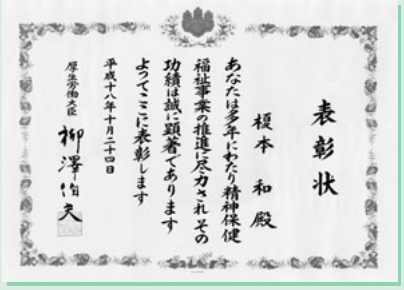
これからも共和病院の顔として、笑顔を絶やさず、頑張っていこうと思います。

ｏ(＾ｏ＾)/

厚生労働大臣賞受賞の報告

院長 榎本　和

昭和42年、名古屋大学精神医学教室に入局し、児童精神医学中心に研修。昭和46年9月には精神保健センターに就職。その後、地域精神保健、子どもの発達障害の相談活動、第一線機関で働く人々へのコンサルテーションを行ってきました。昭和59年4月、共和病院に就職。以後も地域における処遇困難事例についての処遇検討や、地域で生活する精神障害を持つ人、またその家族が安心して生活できるよう、調整役を務め、就学指導や不登校対策事業にも参画し、養護教諭や学級担任などへのコンサルテーションを行いました。これらの業績に対し、平成18年10月24日厚生労働大臣賞を受賞しました。受賞するにあたり、推薦をしてくださった、愛知県精神科病院協会や、今まで関わった子どもたち、患者様、ご家族、および共和病院職員に感謝し、これからもより一層努力する所存です。


表彰状

榎本　和　殿

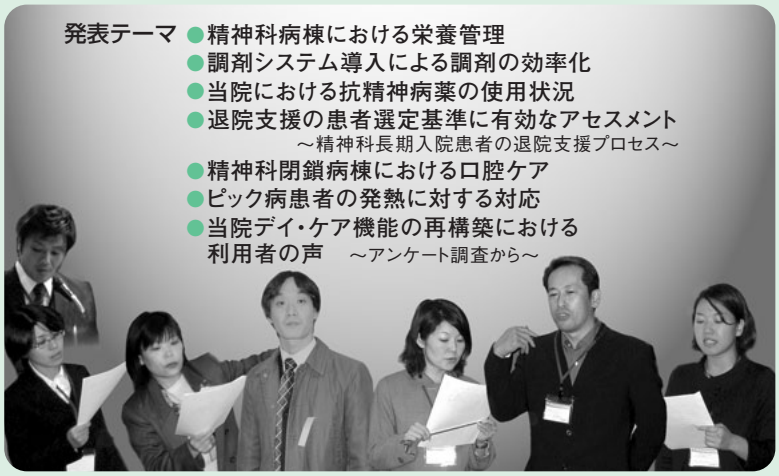
あなたは多年にわたり精神保健福祉事業の推進に尽力されその功績は誠に顕著であります
よってここに表彰します

平成十八年十月二十四日

厚生労働大臣　柳澤伯夫

津学会に参加！

2006年11月16日・17日に三重県の津で開催された第34回日本精神科病院協会精神医学会にて下記の7題について発表を行いました。



編集後記

新しい年が始まりました。今年も広報誌WA!をよろしくお願いします。

「WA!」の名の由来は、患者様、職員の「和」を象徴するものであります。こんな時代だからこそ共和病院はみんなで和を保持し地域のみなさまに優しい病院であり続けたいと感じています。今年も楽しい紙面づくりをしてまいりたいと思います。皆様にもご愛読いただき、ご意見をいただけたらと思っております。（N.M）

I N F O R M A T I O N

K Y O W A　H O S P I T A L

栄養管理を行っています

～NST共和の活動紹介～

入院患者様は本来の病気の他に、低栄養・過栄養・肥満・るいそう・生活習慣病などの多くの問題を抱えている場合があります。そういった患者様に対して、『栄養サポートチーム共和』(NST 共和)は、栄養面から治療に参加し、活動を行っています。

NST活動は患者様の早期治癒・早期退院を目指して、当初は急性期病院で取り入れられたシステムです。外科治療、薬による内科治療に加えて、栄養状態の改善が治癒に大きく係ってくるのは当然なことだからです。

JCNT

日本栄養療法推進協議会

NST稼動施設認定証

特定医療法人共和会

施設名　共和病院

施設番号　00100273

貴施設を日本栄養療法推進協議会認定NST(栄養サポートチーム)稼動施設として認定します

2006年9月1日

日本栄養療法推進協議会

理事長　日野原 重明

共和病院でも早くからNST活動の必要性を掲げ、この活動に取り組んできました。しかし慢性期疾患が多い精神科、また高齢者が中心の介護療養病棟入院患者様においては、急性期疾患とは異なり、栄養管理の基準値の設定が難しかったことがありました。そこで患者様の実態調査(年齢、体重、栄養状態の基準としての血清アルブミン値・コレステロール値など)を行うことで、共和病院としての基準値をもうけることができました。この基準値に基づいて栄養管理を行い、2005・4・1に『NST 共和』を立ち上げました。2006・9・1には日本栄養療法推進協議会から正式にNST稼働施設として認定されました。

NST活動としては週1回のコア・ミーティングと病棟回診、月1回の全体ミーティングを行っています。入院患者様全体の栄養評価を行い、また栄養ケアが必要な患者様に対しては医師、栄養士、歯科医師、薬剤師、看護師、介護士、臨床検査技師、言語療法士など多職種からなる栄養サポートチーム(NST)が協力し、それぞれの立場から、患者様を栄養面からサポートしています。さらに個別対応が必要な患者様に対しては、栄養士が直接病棟に出向き、対応しています。

共和病院の理念である『優しい医療、楽しい職場』がNST活動の基本になっています。

▼NST活動の一つ、口腔ケアの様子

俳句コーナー

名誉院長　加藤邦之助

生き残る　吾恥かしや　鬢の霜　漱石

修善寺の大吐血の後東京の長与病院へ担送入院した頃の句です。二兄早く死す、死する時一本の白髪もなし。余の両鬢漸く白からんとして又一縷の命をつなぐと前書しています。長兄大助は元来病弱で東京大学の前身である開成学校を中途退学し肺結核で明治二十年(三十二才)死亡。次兄栄之助も家財を内緒に家から持ち出したりして困った道楽者でしたが、長兄につづき同年三ヶ月後に亡くなっています。

この二人の兄の髪黒々として若死した時の姿を思い浮かべていたのでしょう。生死の間を彷徨った自分が白髪まじりで今この様に病臥しているという心境が「恥かしや」によく出ています。兎に角修善寺の大患後は以前と違った清明でしかも静穏な心境を吐露する様な佳い句が沢山出来ています。

L'hôpital KYOWA

共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは!

- 患者様に安心と満足を提供する医療
- 良質且つ効率的な医療の提供
- 患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは!

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が患者様へ反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切にして、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

1.あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。

2.あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。

3.あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。

4.あなたの医療上の個人情報は保護されます。

5.あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。

病院長　榎本　和

特定医療法人 共和会 **共和病院**

愛知県大府市梶田町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL http://www.kyowa.or.jp/